

ひめかみ

登録番号：第931号

育成者：定盛昌助 吉田義雄

登録年月日：昭和60年7月18日

羽生田忠敬 土屋七郎

登録者：農林水産省果樹試験場

眞田哲朗 増田哲男

(茨城県つくば市藤本2-1)

別所英男

来歴：「ふじ」と「紅玉」の交雑実生

特性

■栽培特性

樹はやや直立性で、樹勢は比較的強い。短果枝が良く着生し、えき花芽は「紅玉」より少ないが、豊産性に属する。芽が飛び、裸枝になる傾向があるため、側枝の誘引やねん枝を行うとともに適度な切り返し剪定によって結実部位を確保することが重要である。開花期は両親の「ふじ」や「紅玉」より遅く、ほぼ「スターキングデリシャス」と同時期である。交雑和合性は、「紅玉」との正逆交雑で結実率が低い、その他の品種とは高い。収穫期は早生種と中生種の間位置し、長野等の暖地で9月上旬中旬、北東北で9月下旬、北海道で10月中旬となる。なお、収穫前落果はほとんど認められない。

■果実特性

果実は300g前後でやや大きい。果形は長円～長円錐形。果色は濃紅縞で外観は良好であり、無袋栽培に適している。果面は滑らかで、光沢は中程度、果粉が見られ、果面のさびは少ない。果肉は黄白色で、硬度は13ポンド前後で、きめは中程度である。果汁は多く、香りも強い。本品種の特徴は蜜入りが多い点である。「ふじ」の蜜入りが果心部が中心であるのに対して本品種は果肉全体に分散する。糖度は14%、酸度は0.5%前後となり、甘酸適和で食味は濃厚である。貯蔵性は普通貯蔵で3～4週間、冷蔵では60日前後の鮮度保持が可能である。種子数が少ないと変形果が発生し、玉揃いが不良になりやすいので、授粉を確実にし、摘果の際には整形で肥大の良い中心果を選ぶことが肝要である。また、極度に短い短果枝に結実させると葉摘み、玉回し等の着色管理がしにくくなるので、3～10cm程度の果枝を利用する。その他、つる割れ、つるさび、果点の荒れ、貯蔵中における果面のしわの発生などが指摘されているが、栽培、流通上の大きな問題点とはなっていない。

■病虫害抵抗性

斑点落葉病に対してはやや強く、ほぼ「ふじ」なみの抵抗性がある。うどんこ病に対しては弱く、「つがる」なみに発生が認められる。黒星病には「ふじ」なみに弱く、EBI剤等の防除薬剤の散布が不可欠である。

■地域適応性

本州での成熟期は9月上旬から下旬になり、北海道では10月上旬になる。この時期の品種としては「千秋」があり、果実品質が良好で急速に増殖されたが、梗あ部の裂果による商品果率の低さが問題点とされている。「ひめかみ」は栽培上の大きな障害もなく、良品果が得られやすいため、今後、早生種の「つがる」と中生種の「ジョナゴールド」をつなぐ品種としてリンゴ栽培地帯全域に向くものと思われる。なお、収穫時期が高温条件にある暖地の標高の低い地帯では鮮明な着色が得られにくいことから、寒冷地または暖地の標高の高い場所で最も特性を発揮する品種と言える。

本種は北海道で補助品種的な位置付けにあり、長野県では試作品種に挙げられている。平成2年度における植栽面積は北海道で1ha、福島県で1.5ha程度である。

(別所英男)